

交通局

信頼を心で運ぶ市バス・地下鉄

横浜の市営交通は、住宅地から鉄道駅、都心部、公共施設などを結ぶバス路線網と、基幹交通として市を縦断する地下鉄（ブルーライン・グリーンライン）により、市民の皆さんに身近な公共交通機関としての役割を果たしています。

市営バスは、昭和3年に営業を開始して以来、横浜市発展とともに事業規模を拡大し、現在は市中心部を主な営業エリアとして、市内最大規模の141路線を運行し、1日平均約30万人のお客様にご利用いただいております。

市営地下鉄は、路面電車にかわって昭和47年12月から営業を開始し、現在ではブルーラインが湘南台～あざみ野間（40.4km・32駅）で横浜中心部と地域の拠点をつなぎ、グリーンライン（平成20年3月営業開始）が中山～日吉間（13.0km・10駅）で横浜市北部の市民の皆さんの足として役割を果たしています。現在2路線合計で1日平均約53万人のお客様にご利用いただいております。

交通局は、将来にわたって市民の皆さんに真に必要とされる「市営交通」となるため、今後も市民の皆さんの足として、安全・確実・快適な交通サービスを提供し、お客様にご満足いただける市バス・地下鉄を目指してまいります。

市営バスの運営

■バスの営業（営業課、路線計画課、運輸課）

市営バスは市中心部を主な営業エリアとし、1日平均約30万人のお客様にご利用いただいております。一般乗合バスのほか、路線バスの貸切も行っています。

令和3年度バス運輸現況

表1 一般乗合バス運輸概要 令和4年3月31日現在

営業キロ	516.3km
運転系統数	141系統
系統長	平均7.0km
停留所数	1,269か所
在籍車両数	793両
運転車両数	1日平均635両
運転キロ数	1日平均約8万km
乗客数	1日平均29万人



走行中の市営バス

表2 バス運輸実績

令和3年度

種別	年間（決算）	1日平均	
運転車両	計（両）	242,553	665
	一般乗合	231,899	635
	市内遊覧	0	0
	貸切	10,654	29
運転キロ	計（km）	26,885,108	73,657.8
	一般乗合	26,256,600	71,935.9
	市内遊覧	0	0
	貸切	628,508	1,721.9
乗車人員	計（千人）	107,876	295.6
	一般乗合	105,685	289.5
	市内遊覧	0	0
	貸切	2,191	6.0
乗車料収入	計（千円）	18,381,375	50,360
	一般乗合	17,899,405	49,039
	市内遊覧	0	0
	貸切	481,970	1,320

（注1）乗車料収入は税込。

（注2）四捨五入の関係で、内訳と合計が一致しない場合があります。

■施設の整備及び利便性の向上 （営業課、路線計画課、運輸課）

バス停留所上屋、ベンチの更新

老朽化したバス停留所の上屋、ベンチなどを更新し、バス利用をより安全で快適なものにしていきます。

平成16年度から民間事業者と契約し、交通局の財政的負担のない広告付上屋を設置しています。（令和4年8月現在268基）

路線の再編整備

お客様の需要動向や採算性、効率性を考慮しながら、バスサービスのさらなる充実・強化、ダイヤの改善による定時性の向上や地下鉄・他鉄道との接続改善に取り組んでいます。

走行環境の改善

運行の支障となる箇所を改善を図り、バスが安全に運行できるよう、関係機関への要望・調整を行っています。

交通安全啓発（運輸課、営業所）

地域の小学校等と連携して、バスの乗り方教室・交通安全教室・バリアフリー教室などを開催しています。また、バスに関する事故防止のため、交通安全動画等の配信や、市立小学校の新1年生全児童に交通安全リーフレットの配付を行っています。



交通安全教室



交通安全動画

バリアフリーの向上（車両課）

どなたにも利用しやすいバスネットワークの構築に向けて、平成8年度から、車いすのお客様にもご利用いただけるよう、中扉にスロープ板を備えたバス車両を導入しています。令和3年度末現在、ノンステップバス766両、ワンステップバス27両を保有し、ノンステップバス導入率は96.6%、ワンステップバスを含むバリアフリー適合率は100%となっています。（一般乗合）

環境対策の推進（営業課、車両課）

バスはマイカーと比較すると利用者1人当たりの二酸化炭素（CO₂）排出量が少なく、“地球にやさしい”交通手段です。市営バスでは地球温暖化防止など環境対策



スロープ板

に力を入れています。

最新排出ガス規制適合車への更新促進

自動車の排出する窒素酸化物（NO_x）などの総量減のため、最新排出ガス規制適合車への車両更新を引き続き進めます。

ハイブリッドバスの導入（令和3年度末現在：138両）

モーターを用いてエンジン出力を補助することにより粒子状物質（PM）、二酸化炭素（CO₂）排出量を削減した低公害バスです。

燃料電池バス（FC）の導入

次世代エネルギーとして注目されている水素を燃料とした燃料電池バス（FC）を令和元年11月から運行しています。このバス車両は、走行中にCO₂や環境負荷物質を排出しない優れた環境性能を有しており、令和4年度に2両の追加導入を予定していますが、引き続き水素ステーションの整備状況、車両費や燃料費の動向を踏まえながら今後の導入について検証します。



FCバス

市内観光事業等の展開（営業課）

貸切バス

学校の遠足や自治会、企業のイベントなど大人数が移動する際に、5種類のバス（リムジン型・路線バス型など）をお貸ししています。

料金は時間及び距離で決定します。市内だけでなく県外への移動にもご利用いただけます。

貸切バスをご利用のお客様が安全・安心にご利用いただける取組を進めています。また、車内にオゾン発生器を設置するなどの感染拡大防止の取組を行っています。

企業従業員の送迎バスとしての活用をはじめ、地域団体や旅行事業者、客船シャトルバスなどの需要に応じています。

令和3年度以降、新型コロナウイルスワクチン接種に係る大規模接種会場等の利用者に向けたシャトルバスを運行するなど、本市施策の一翼を担っています。

■バス営業所・定期券発売窓口（営業課）

バス定期券や乗り降り自由な1日乗車券など便利でお得な各種乗車券を発売しています。バス路線図や詳しい案内パンフレットなども用意しています。(表3、4参照)

■観光・コンベンション機能強化を支える取組（営業課）

観光スポット周遊バス「あかいくつ」

横浜都心部の観光スポットをレトロ調バスで周遊する「あかいくつ」は、車内で観光情報も案内しています。

周遊ルート：桜木町駅前→ハンマーヘッド→赤レンガ倉庫・マリン&ウォーク→中華街→港の見える丘公園前→大さん橋客船ターミナル→赤レンガ倉庫前→桜木町駅前

(注) 定期券、敬老特別乗車証・福祉特別乗車券などではご乗車できません。

BAYSIDE BLUE（ベイサイドブルー）

全長約18mの連節バス「BAYSIDE BLUE（ベイサイドブルー）」は横浜駅から出発し、水際線沿いを山下ふ頭まで運行します。

運行ルート（下り）：横浜駅前（東口）→パシフィコ横浜→カップヌードルパーク・ハンマーヘッド入口→山下公園前→山下ふ頭

運行ルート（上り）：山下ふ頭→中華街入口→赤レンガ倉庫前→パシフィコ横浜→横浜駅改札口前

表3 バス営業所 令和4年8月1日現在

営業所名	所在地	電話番号
保土ヶ谷営業所	保土ヶ谷区川辺町 4-2	045-331-2401
若葉台営業所	旭区若葉台 2-15-1	045-921-0581
浅間町営業所	西区浅間町 4-340-1	045-311-2251
滝頭営業所	磯子区滝頭 3-1-33	045-751-5548
本牧営業所	中区本牧元町 45-1	045-621-1071
港南営業所	港南区日野南 3-1-1	045-833-1511
港北営業所	港北区大豆戸町 581	045-545-1804
鶴見営業所	鶴見区生麦 1-3-1	045-501-0701
緑営業所	緑区白山 1-10-1	045-931-2266
磯子営業所	磯子区森 3-1-19	045-751-7581

(注) 緑、磯子営業所は、運行业務を横浜交通開発（株）に委託しています。

ピアライン

運行ルート：桜木町駅前～馬車道駅前～ハンマーヘッド

ぶらり三溪園 BUS ※土日休運行

運行ルート：横浜駅前（東口）～桜木町駅前～中華街入口～三溪園

ぶらり野毛山動物園 BUS

運行ルート：横浜駅前（東口）～びあアリーナMM～桜木町駅前～野毛山動物園前～一本松小学校前

みなとぶらりチケット(地域限定市営バス・市営地下鉄1日乗車券)

横浜の主な観光スポットが集中するベイエリアの市営バス・市営地下鉄に1日乗り放題のチケットです。

観光施設やショッピング施設、博物館などでの特典も受けられます。

適用区間：市営バス（横浜駅東口～MM21・関内・

伊勢佐木町～港の見える丘公園、三溪園）

地下鉄（横浜駅～伊勢佐木長者町駅）

連節バス「BAYSIDE BLUE（ベイサイドブルー）」、観光スポット周遊バス「あかいくつ」、ピアライン、ぶらり三溪園 BUS、ぶらり野毛山動物園 BUS（横浜駅前～野毛山動物園前）全線

料金：大人 500円、小児 250円

(注1) 「みなとぶらりチケットワイド」(大人550円、小児280円)は、上記の適用区間に加え、新横浜駅で乗降できます。

(注2) 「みなとぶらりチケット」に京浜急行の往復乗車、みなとみらい線のフリー乗車がついた「横浜1DAYきっぷ」も発売しています。(取扱いは京急のみ)

また、相鉄線の往復割引乗車がついた「相鉄発みなとぶらりチケット」も発売しています。(取扱いは相鉄のみ)

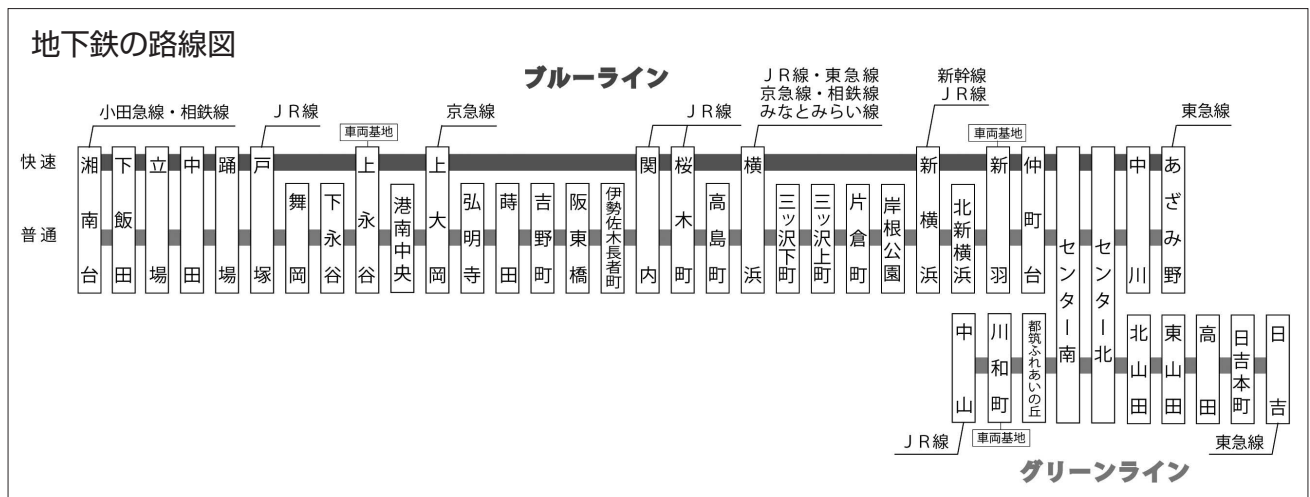
(注3) スマートフォンアプリ「my route」でも、みなとぶらりチケット及びみなとぶらりチケットワイドを発売しています。

表4 定期券発売窓口 令和4年8月1日現在

定期券発売窓口		営業日	電話番号
地下鉄駅構内	横浜駅お客様サービスセンター	毎日	045-311-3299
	上大岡駅お客様サービスセンター		045-844-7100
	センター南駅お客様サービスセンター		045-943-4651
	新横浜駅お客様サービスセンター		045-472-9193
横浜駅東口バス定期券発売所	毎日	045-465-2040	
鶴見駅東口バス定期券発売所	月～土	045-501-5270	
中山駅前バス定期券発売所	日、祝日休業ただし繁忙期は営業	045-933-0022	
バス営業所(保土ヶ谷、若葉台、滝頭、本牧、緑、磯子)	月～金(祝日を除く)	表3のとおり	

(注) 営業日及び営業時間は窓口によって異なりますので、交通局ホームページをご確認ください。年末年始の営業日についても、交通局ホームページをご確認ください。バスのIC定期券は、上記発売窓口のほか、地下鉄の各駅でも購入できます。なお、地下鉄の定期券は、横浜駅、上大岡駅、センター南駅のお客様サービスセンターのほか、地下鉄の各駅でも購入できます。鶴見駅東口バス定期券発売所及び中山駅前バス定期券販売所は、3月下旬、4月上旬、9月下旬等において一部の日曜祝日で営業します。

地下鉄の運営



令和3年度地下鉄運輸現況

表5 地下鉄運輸概要

令和4年3月31日現在

区 分		ブルーライン（1・3号線）	グリーンライン（4号線）	
線区概要	営業区間	あざみ野～湘南台	中山～日吉	
	営業キロ	40.4km	13.0km	
	駅数	32駅（地下27駅、地上5駅）	10駅（地下7駅、地上3駅） センター北・センター南は共用駅	
運転概要	所要時間	普通68分、快速60分（ラッシュ時を除く）	21分	
	平日運転間隔	朝混雑時	4分30秒	3分30秒
		昼間時	5分30秒～10分25秒	7分30秒
		夕混雑時	6分	6分
	運行回数	平日185回、土休日163回	平日187回、土休日143回	
車両編成	6両	4両		
車両	使用車両	3000形（A、N、R、S、V）	10000形	
	保有車両	216両（36編成）	68両（17編成）	
	車両基地	上永谷・新羽	川和	

表6 地下鉄運輸実績

令和3年度

区 分		年 間	1日平均
乗車人員（千人）	総数	194,477	533
	定期	123,131	337
	定期外	71,346	195
乗車料収入（千円）	総数	35,614,111	97,573
	定期	17,509,482	47,971
	定期外	18,104,629	49,602

(注1) 乗車料収入は税込み。

(注2) 四捨五入の関係で、内訳と合計が一致しない場合があります。



ブルーライン 4000 形車両

■地下鉄の営業（営業課、運転課）

市営地下鉄ブルーラインは、昭和47年の開業以来着実に路線を延ばし、現在、横浜市域北部のあざみ野駅から市中心部を抜け、隣接する藤沢市湘南台駅までの40.4kmを運行しています。また、平成20年3月には、中山駅からブルーラインのセンター南駅・センター北駅を経由し、日吉駅に至る全長13.0kmのグリーンラインが開業しました。

現在、市営地下鉄は、ブルーライン、グリーンラインを合わせ53.4kmを運行し、都心と副都心、街と街をつなぎ、1日平均約53万人のお客様を運ぶ横浜の基幹交通として沿線地域の発展に大きな役割を果たしています。

■安全対策（駅務管理所、運転課、施設課、車両課、建築課、電気課）

地震対策

気象庁の観測データを受けて地震の大きな揺れが到達する前に走行中の列車を自動的に止め、被害を軽減する「早期地震警報システム」を設置しています。また、大規模地震発生後に早期に列車の運行を再開するために、駅部を含めた高架橋・トンネルの耐震補強を進めています。

津波・浸水対策

地震による津波が発生した場合の対応マニュアルの整備や訓練の実施などの取組を強化するとともに、トンネルからの避難口や、停電時でも津波浸水区間の列車を次駅まで走行させるための大容量蓄電池を設置しています。

また、浸水対策として駅出入口に止水板を、道路面にある通風口に浸水防止機を設置しています。

施設の老朽化対策

開業から40年以上経過したブルーラインにおいて施設の点検を進めるとともに、特に沿岸部の海水による塩害が進んでいる区間の軌道補修、老朽化したトンネル補修に取り組み、安全性を高めています。また、設置から長期間経過したエレベーター・エスカレーターの更新を順次行っています。

ホームの安全対策

全駅に設置したホームドア（可動式ホーム柵）により、ホームからの転落や電車との接触等の事故を防止し、一層安全な運行に努めています。

応急処置対策

お客様の人命を守るため、応急処置手当や迅速な対応ができるよう駅係員と乗務員が普通救命講習を受講しています。

また、全駅に「AED」を設置し、お客様の人命救助に備えています。

地下鉄車両の電気機器の予防保全

地下鉄車両は、製造から12年以上経過すると、主要装置に使われている電子部品等の経年劣化が生じ故障率が増加するため、電気機器を更新することで車両の安全性を維持します。

令和4年度はブルーライン6編成の電気機器更新を行います。また、グリーンラインは令和3年度までに概ね更新を完了していますが、一部の編成においては、6両化工事に併せて実施する予定です。

■ワンマン運転の安全性の維持・向上（運転課）

ブルーラインは平成19年12月、グリーンラインは平成20年3月の開業からワンマン運転を実施しています。乗務員は運転席のモニター画面の指差確認・称呼の徹底や機器類の確実な操作を実施し、安全運行の向上を図っています。

トンネル内には限界支障センサーを設置し、センサーが反応した場合は、その反応したエリア内を停電させ、列車を緊急停止させます。また、各車両に4箇所ずつ、非常通報装置を設置しています。通報時に乗務員が対応できない場合は、総合司令所が応答し、車内での非常時の速やかな対応を図っています。



グリーンライン 10000 形車両

■ブルーライン快速運転（運転課）

ブルーラインでは、平成27年7月から快速運転を実施しております。快速運転の実現により、主要駅間の速達性や利便性が向上するとともに、港北ニュータウンを中心とする市内北部や南西部等と都心部のアクセスが向上し、市域の一体化やバランスある発展を図ります。

■車内マナー向上（営業課）

車内マナー向上のため、車内放送やポスター等の取組を中心に啓発活動を行っています。

平成24年7月から真に座席を必要とするお客様が利用しやすくなるよう、特に席の譲り合いをお願いする「ゆずりあいシート」を各車両に設置しています。

また、平成23年度から、（一財）横浜市交通局協力会と共催で、小学生を対象に乗車マナーをテーマとしたポスターコンクールを実施しています。

資産の活用（資産活用課）

交通局資産（駅・車両・所有土地等）について、市場価値を十分に活かし、駅ナカ・高架下の開発や土地の貸付、

広告事業の運営等、収益事業を推進しています。

駅ナカでは、お客様のニーズに応える魅力的な店舗の誘致やATM設置等により利便性向上を図っているほか、高架下等の交通局所有地では、店舗や駐車場・保育園等へ貸付を行い、収益を確保しつつ賑わい向上に寄与しています。

広告事業では、デジタルサイネージ・車内ビジョン等デジタル化の推進や、大型広告ボード・ラッピングバス等、変化する広告ニーズを捉え、増収を図っています。

インターネットでの市営バス・地下鉄運行情報の提供（システム推進課）

多くのお客様がPC・スマートフォン・携帯電話でインターネットを利用されていることを踏まえ、市営バス・地下鉄の時刻表・経路検索・遅延証明書のほか、リアルタイム情報として、市営バスの混雑情報・接近情報や市営地下鉄の列車走行位置・遅延情報など、インターネットでの運行情報提供サービスの充実を図っています。

(URL <https://navihamabus.city.yokohama.lg.jp/>)

市営交通情報

横浜交通 hama-eco カード

交通局では、市営バス・地下鉄の定期券が購入できるクレジットカード「横浜交通 hama-eco カード」について、三井住友カード株式会社と提携しています。

このカードで、市営バス・地下鉄の定期券を購入すると翌年度のカード年会費が無料になるほか、「パスモオートチャージ」や電子マネー「iD」にも対応しています。



横浜交通 hama-eco カード

交通局ウェブサイト

市営バス、地下鉄をご利用いただいているお客様をはじめ、幅広く、手軽に市営交通事業の情報を取得できるようウェブサイトを開設しています。

交通局の最新情報以外にも、市営バス、地下鉄の運賃・経路検索、時刻表、路線図のほか、お楽しみ情報、職員採用情報、お問い合わせ先などを見ることができます。

(URL <https://www.city.yokohama.lg.jp/kotsu/>)

横浜市電保存館

所在地 磯子区滝頭3-1-53

TEL 045-754-8505

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）及び年末年始（12月29日～1月3日）

春休み、夏休み、冬休みは月曜日も開館

昭和47年に廃止されるまで市民の皆さんの足として親しまれていた横浜市電の車両やパネルを展示しています。また、鉄道模型コーナーや横浜の発展と都市交通のあゆみをテーマとした歴史展示コーナーもあります。



かつて横浜を駆け巡った市電を当時の姿で7両展示

市営地下鉄開業50周年（営業課、総務課）

昭和47年の開業から50周年を迎えるにあたり、日頃からの感謝の気持ちを込めて12月17日に「市営地下鉄開業50周年こども無料デー」を実施します。また、沿線の施設や企業とタイアップ企画も実施します。

これからも市民の皆さまの足として市営地下鉄は走り続けます。



「市営地下鉄開業50周年こども無料デー」リーフレット型小児1日乗車券